

ます。国内外に鳥取砂丘の魅力が大いに発信していきたいです。

坂根 仁風閣は鳥取城跡内の観光地として魅力的な施設ですが、さらに市民に愛され、立ち寄ってもらいたいと思います。庭園や建物を活用したイベントを積極的に開催しています。例えば、麒麟のまち観光局と連携したグランピングイベントや、庭園を活用した乗馬体験、庭園、館内を活用した音楽コンサート、城跡ライトアップと連携したマルシェの誘致などです。取り組みを通じて地元の人が多く訪れ、身近な文化財としてリピーターも増えてきました。



市長 文化財は保全が第一ですが、今の時代は魅力の発信、活用も求められます。仁風閣は文化財として価値が高く、日本の明治期の洋風建築を代表する建物です。市としても保存修復をしっかりと行い、多くの人にお越しいただけるよう、観光振興への活用に取り組みたいです。

に魅力溢れるエリアがあるんだよということ、いかに上手に伝えられるかが鍵になると思います。**山田** インバウンド客の楽しみの一つはその地域独特の「食」です。鳥取市ならではの食材を施設でふるまい、もてなすことで、より鳥取を気に入っていただき、その情報が広がっていくと思います。**坂根** 仁風閣は鳥取城の御城印販売、日本百名城スタンプの押印場所です。それらを求める海外の人が驚くほど多く、想像する以上に、日本の文化を求めている人が増えていると感じています。

渡邊 御朱印ですが、着物、日本酒なども世界で注目のコンテンツです。そうした日本の伝統文化に通じるような切り口からの提案は、インバウンド客の誘致にとって非常に有効です。道の駅かわはらとしてもみなさんと連携し、うまく情報発信をしていきたいです。**市谷** 人によって心に響くコンテンツは様々です。観光DXの事業を生かし、様々なコンテンツを作成



※画像はイメージです。

市谷 観光DX事業をさらに推進できるように、様々な角度でアプローチしたいです。インバウンドに関して、交通のチケット、体験コンテンツ、観光施設をパッケージ化した商品を昨



渡邊 道の駅かわはらは、観光客や地元の人など年間100万人以上の利用客数がある施設です。神話にちなんだスポットをめぐる神話観光として、「因幡の白兔ミステリーウォークバスツアー」を企画し、八上姫の聖地を巡るコースなど、これまでに14回開催しました。また昨春にはうさぎの御朱印帳を開発。県内各地のうさぎ伝説や社寺の波兎と呼ばれる彫刻をモチーフにしたデザインで、地元の杉を使っています。インバウンド観光客に好評で驚いているところ。また、地元の作家を生かすものづくりを楽しむ「ゆるゆる田舎塾」、県内の蔵元さん呼び日本酒の

し、その届け方を探りながら、インバウンド誘客につなげていきたいです。**市長** 鳥取市にも国内外からたくさん観光客が来られています。近年は、観光客がSNSなどを通して自ら情報を集め、行き先を決める傾向にあります。さらにみなさんや関係機関と横の連携を図りながら、効果的、効果的に鳥取市の魅力を発信し、観光環境の上質化、高付加価値化に取り組んでいきたいです。



年から用意しています。今は鳥取市のみですが、これからはエリア拡大や、DXに対応したテーマごとのライナップをそろえるなど、多くの需要に応えられる観光地づくりをしていきたいです。**山田** まずは4月にヤマタ鳥取

かかせません。道の駅でのイベントや情報発信などをきっかけに、人と人のつながりを広げ、地域を元気にしていきたいです。**坂根** 宿泊業、観光業に携わっ

大切なことは人とのつながり

飲み比べなどを楽しむイベント、老若男女を問わず霊石山を楽しむ「河原春フェスin霊石山」、雑貨やフード販売などが楽しめる「道の駅グラスマーケット」なども開催しています。**市長** 道の駅は大きく分けて、観光客を呼び込んで活動する「ゲートウェイ型」と、地域の人と活動し元気の拠点となる「地域センター型」があります。道の駅かわはらは両方の機能を併せ持っていると感じます。

渡邊 人とのつながりや出会いが大切。観光において、地域資源はもちろんですが、そこに関わる人の存在が欠かせません。道の駅でのイベントや情報発信などをきっかけに、人と人のつながりを広げ、地域を元気にしていきたいです。

砂丘ステイションをオープンさせ、地域の人はもちろん、観光客にも愛され多くの人に訪れていただける施設をしっかりと作り上げていきたいです。**渡邊** 観光には地域の隠れた魅力の発掘や、資源価値の再認識が不可欠で、それには地域の未来を担う次世代の育成が、志を同じくする人々のつながりが重要です。そうした人と力を合わせ、思いを形にしていく機会の創出と情報収集を特に行っていきたいです。**坂根** 仁風閣は文化財保存修理のため約5年間の休館中ですが、

た経験の中でよく言われるのが、観光において最終的に大事なものは人だということ。人とのつながりから、おもてなしやお出迎えの気持ちが生まれ、観光地としての魅力が出てきます。それが伝われば、観光客が自然と立ち寄ってくれる鳥取市になると思います。**山田** ゲストハウスは、砂の縁と書いて「さえん」と読みます。地域の人が、または観光客とつながり縁ができる。そういう施設にしたいと思いましたが、人と人とのつながりを活性化させ、魅力を高めていきたいです。**市谷** 一言で観光といっても協議会、観光施設、観光協会など多くの人が関わります。横の連携を深めることで相乗効果が生まれ、効果的に情報発信ができるのではないかと考えています。そうした横の連携をリードしていきたいような組織になりたいです。

インバウンド誘客数を増やすには？

市谷 大阪や京都などメジャーな観光地を目指してきた人にも、もう少し足を延ばしたら鳥取市のように

3月下旬に仮ガイダンス施設のオープンを予定しています。仁風閣、城跡の魅力を発信しながら市民、あるいは観光客がこぞ集まるような場所になりたいと思います。**市長** 本市の観光の可能性を改めて認識しました。これから本市の魅力をもっと発信して、多くの方々に楽しんでいただき、通過型ではなく滞在型の観光地としてシフトしていけるように、みなさんと力を合わせ、取り組んでいきたい。今年大きな転機になる年と期待しています。

※座談会の内容は要約しています



司会 田中 奏子さん

座談会の模様は、いなばびよんびよんネット(12ch)で放送します。
日時：1月1日(月・祝)、2日(火)
6:00~9:00、12:00~ほか
3日(水)~6日(土)
6:00~、14:00~ほか